

資格制度、ビル洗浄など提案

エアコン丸洗い協 営業ツールも拡充

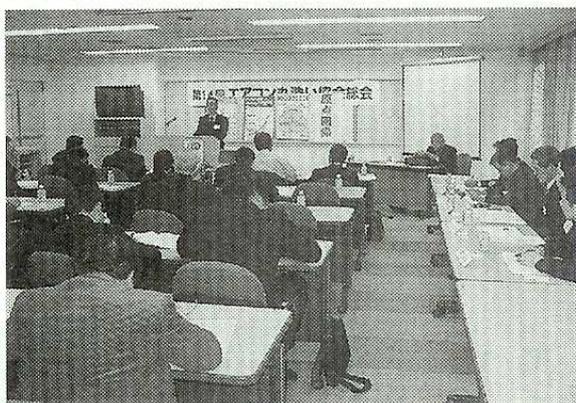
エアコンの丸洗いを行う事業者で組織するエアコン丸洗い協会(西村直人会長)は、十一日、船橋市・クロス・ウェーブで第十四回総会を開いた。一日目は①成功・失敗事例報告②総会・新商品発表③パネルディスカッション④懇親会、の四部構成。二日目は各社の活動計画の研修などを行った。重点事業は▽新規ビジネスモデルの確立(資格制度「エアコン丸洗い診断士(仮称)」)▽営業ツールの拡充▽ビル用空調機・熱交換器A H U用の洗浄機(試作)——など。特に資格制度は初級・上級・師範の三段階をイメージしており、差別化政策やブランド強化などにつなげていきたい考え。



西村直人会長

西村会長はあいさつの中で「家庭用から業務用、さらには大型ビル用空調機まで柔軟に対応できる体制が整った。今年のテーマは『原点回帰』。初心に帰って、事業と組織の拡大に全力を傾注していこう」と呼びかけた。成功・失敗事例は、エアコン丸洗い東日本、西部電業管工、伊藤忠エネクスホームライフ中部、関東燃料企業組合、共和電気などが報告した。東日本支部の支部長を兼ねる佐藤雄司・エアコン丸洗い東日本社長は「昨年十二月三日に会社を設立した。エアコン丸洗いの事業に参入し、私も十年目の節目

の年を迎えた。エアコン洗浄を取り巻く環境は、地球環境問題や七月の洞爺湖サミットもあり追い風にある。今年も実践的な研修会を予定しており、皆さんの協力を得ながら普及させていきたい」と抱負を語った。共和電気の小島清社長は「西村会長の考えに共鳴し、九年前に事業を立ち上げた。ゼロからスタートしたが、昨年度は三千五百万円



を売り上げた。今年は四百万円を計画している。皆さんは顧客があり、積極的に対応すれば大きな成果を上げることができる」と述べた。

総会では十九年度の活動報告、会計報告などがあつた。また、今年度の事業計画として①資格制度「エアコン丸洗い診断士(仮称)」の構築②CO₂削減、エアコン丸洗いサービス割引券事業の推進③営業ツールの開発(マンガによる訴求な

る。教育プログラムは、▽初級コースは家庭用エアコンを円滑に洗浄する能力があり、原理や構造を理解しているのが基本。施工実績は家庭用百台以上。講座終了後の試験に合格▽上級コースは、業務用エアコンの構造やヒートポンプの原理を理解していること。省エネ(電気代削減)を試算、消費者に洗浄サイクルを提案できる能力があることなどを想定している。施工実績は業務用四十台以上▽師範コースは、上級コースを終了し、初級、上級コースを指導・育成できる能力がある——など。

新たな普及拡大策では、ビル用空調機・熱交換器A H U(エア・ハンドリング・ユニット)用の洗浄機(試作)を提案した。西村会長が社長を務めるエアコン丸洗い(船橋市)とソニック設備工業(本社・船橋市、中屋弘明社長)との共同開発。省エネルギー事業を対象にしたビル用空調和機熱交換用洗浄機の試作とその効果の実証検証として「平成十八年度千葉県新産業創造研究開発費補助金事業」にも採択された。

事業と組織拡大を確認した総会
④会員受注業務の本部出張支援⑤組織強化(加盟企業増強活動、タイアップ事業、支部体制網の拡充)⑥関西支部・中部支部・四国支部・中国支部などの設立

⑥エアコン丸洗い協会のホームページの有効活用(受注専用サイトの作成、サービスメニューや見積もり価格、作業内容などの標準化)⑦エアコン丸洗いブランドの高揚(ロゴの統一、作業制服チョッキなど)「エアコン丸洗い診断士」は、初級・上級・師範の三段階をイメージ。今年度は準備期間とし次年度から正式にスタートしたい考え。

すでに実用性も確認しており、西村会長は「環境問題、温暖化対策、省エネ、CO₂削減などを背景に市場拡大が期待できる」としている。パネルディスカッションでは、出席者全員が本部からの提案のほか、資格制度の導入、業界の現況分析と提案事項、業界の進む方向、取り組むべき課題など多岐にわたって意見交換した。

エアコン丸洗い協会は、エアコンクリーニング・エアコン洗浄(分解洗浄)の技術集団。平成七年三月から事業を開始。フランチャイズではなくボランティアチェーン組織で対応しているのが特徴。情報の共有化、ノウハウ交換、顧客満足の上などに努力している。加盟事業者は百三十七社。